

2020年3月期決算説明会 主要Q&A

Q：新型コロナウイルスの感染拡大について、現状及び上期業績見通しへの影響を教えてください。

A：世界的な新型コロナウイルスの感染拡大影響により経済活動が急速に落ち込み、先行きの不確実性が高まる中、特に下期以降の見通しが不透明です。適正かつ合理的な業績予想の算出が困難なため、通期の業績予想は未定としております。上期見通しについても緊急事態宣言前の3月末時点のもので、足元の状況は顧客及び案件毎に異なります。継続案件・制度対応案件の実行はテレワーク等により全力で支えております。一方、一部の新規案件で中断・延期もあり、特に製造業・旅行業・小売業は注視が必要と見ております。

Q：2020年3月期下期の受注・受注残が対前年で大幅に減少した要因は何か。新型コロナウイルスの感染拡大影響によるものか。

A：2020年3月期下期の受注高は1,323億円であり、対前年度-121億円の減となりました。内訳は、産業・流通サービスで+10億円。金融で-20億円。公共公益は中央省庁向け大型案件の反動減があり-50億円です。ITインフラは、前年度4Q期に駆け込み受注があったことにより-30億円。鉄鋼は前年度に製鉄所刷新案件・商号変更対応等の受注が集中したことにより-30億円。新型コロナウイルスの感染拡大の影響はこの下期にはありませんでしたが、今後の動向は十分に注視してまいります。

Q：テレワークに関連して、DaaSの需要について教えてください。

A：新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、テレワーク導入のニーズも高いと認識しております。一方で、現下の状況でIT投資判断を先送りしている顧客もあり、具体的なIT投資に繋がるかは注視しております。

Q：DX&SCCについて、人員規模や組織としての位置づけを教えてください。

A：全社からDX人材を集結し、システム研究開発センター兼務者まで含めると約80名規模の組織です。DX&SCCでは、デザインシンキング、アジャイル、データ利活用、AI、自動化など、DX推進に必要となる技術をもとに、事業部のドメイン/ノウハウを組み合わせる顧客のDX推進との共創、ソリューション協業を進めてまいります。

以上